

## 2015年度インフルエンザ情報

昨シーズン(2014/2015)のインフルエンザ流行開始時期は、平年より2週間程度立ち上がりの早い11月下旬でした。ピークの時期は1月中旬～下旬で流行の低下は例年より早い傾向にありました。

季節性インフルエンザは容易にヒトからヒトに感染する急性ウイルス性感染症であり、インフルエンザワクチンの予防接種は発症や重症化を防ぐ有効な方法の一つです。

流行期前にインフルエンザ情報の整理をし、今シーズンに備えましょう。

### 2015年度 インフルエンザHA ワクチン 製造株決定

今年度のインフルエンザHAワクチンの製造株は5月8日付で厚生労働省より通知があり、下記のように決定されました。今回より、4価(A型株2価、B型株2価)のインフルエンザHAワクチンを導入することとなりました。

- A型株 A/カリフォルニア/7/2009(X-179A)(H1N1)pdm09  
A/スイス/9715293/2013(NIB-88)(H3N2)
- B型株 B/ブーケット/3073/2013(山形系統)  
B/テキサス/2/2013(ビクトリア系統)



### 季節性インフルエンザワクチン“4価”って何？

#### ◆インフルエンザワクチン製造株の世界の動向

長年にわたってWHOは、年に2回、流行しているウイルスの中で、最も代表的な3種(A型インフルエンザ2亜型とB型インフルエンザ1種)を標的にした3価のワクチン構成を推奨してきました。B型株については、ビクトリア系統と山形系統という2つの系統が存在しますが、どちらか一方のワクチン株を選定していました。

しかし、2013年インフルエンザシーズン(南半球向け)からは、従来の3価ワクチンのウイルスに加え、もう1種のB型インフルエンザウイルスを加えた4価のワクチン構成が推奨されるようになりました。米国でも、2013/2014シーズンから4価ワクチンが導入され、世界の動向は4価ワクチンへと移行してきています。

#### ◆日本における4価ワクチンの導入理由

近年、インフルエンザの流行は、A/H1N1pdm09及びA/H3N2に加えて、B型であるビクトリア系統と山形系統の混合流行が続いています。1シーズン中に抗原性の異なるビクトリア系統と山形系統の両方が混在すると、B型に対するワクチンの効果はA型よりも劣るといわれています。来シーズンにどちらの系統のB型ウイルスが流行するかを予想することは、現在のサーベイランスでは極めて困難であり、過去12シーズンで流行予測が的中したのは6シーズンにとどまります。

そこで、日本においても4価ワクチン導入の是非が検討され、今シーズンより導入されることが決定しました。4価ワクチンは、B型インフルエンザウイルス感染に対して、より高い防御効果をもたらすと予想されています。

#### 表. インフルエンザ3価ワクチン

例) 日本国内 2014/2015 ワクチン製造株

- A型株 A/カリフォルニア/7/2009(X-179A)(H1N1)pdm09  
A/ニューヨーク/39/2012(X-233A)(H3N2)

※A型ウイルスの亜型(タイプ)の中で、インフルエンザA(H1N1)及びA(H3N2)がヒトにおいて主流

- B型株 B/マサチューセッツ/2/2012(BX-51B)

※B型ウイルスの分類として、ビクトリア系統と山形系統の2種類の株が存在

3価から4価に  
変わります

